

2020年第3回 IEEE Japan Council 理事会議事録

日 時：2020年12月11日(金)14:00~18:24

場 所：機械振興会館 6階 6D-1-2 および Web 会議

出席者: 尾上 Chair、佐波 Vice Chair、滝嶋 Secretary、羽渕 Treasurer、
大鐘札幌支部 Chair、佐藤仙台支部 Chair、加藤信越支部 Chair、
宇佐見東京支部 Vice Chair、吉田東京支部理事、
穂積名古屋支部 Chair、佐藤名古屋支部 Secretary、杉江関西支部 Chair、
梅田関西支部 Vice Chair、野口四国支部 Chair、大久保広島支部 Chair、
椋木福岡支部 Vice Chair、福田 COC Chair、大野 SAC Vice Chair、桑原 AC Chair、
山田 IPC Chair、津田 Past Chair、杉江 Past Secretary、眞田 Past Treasurer、
白川 HC Chair、野田 WIE Chair、重松 LRSC 委員、栗本 MD Coordinator、竹村 YP
Coordinator、
青山 LMAG Coordinator、鈴木 EA Coordinator、福田 IEEE President、
南 MGA ARC Past Chair、西原 R10 Director、橋本 R10 Secretary、高村 R10 Treasurer、
矢野 R10 WIE Chair、鈴木 R10 YPC Chair、小菅 2020 IEEE Technical Activities
Vice President、
百武オブザーバ、梶川オブザーバ、前原オブザーバ、末松オブザーバ、河東オブザーバ、
畑オブザーバ、松居オブザーバ、佐藤オブザーバ、浜田オブザーバ、
田中オブザーバ、武田オブザーバ、事務局、セクレタリアシスタント、書記

議題：

1. 前回理事会議事録の確認（審議）
2. 2021-2022年理事会・委員会メンバー（審議）
3. 2020年 Japan Council 活動報告
4. 2020年 Japan Council 決算予想
5. 常設委員会 2020年活動報告、2021年活動計画案および予算案
 - 5-1 Chapter Operations Committee
 - 5-2 Student Activities Committee
 - 5-3 Awards Committee
 - 5-4 Industry Promotion Committee
6. Ad-Hoc 委員会 2020年活動報告、2021年活動計画案および予算案
 - 6-1 Long Range Strategy Committee
 - 6-2 History Committee
7. Affinity Group 2020年活動報告、2021年活動計画案および予算案
 - 7-1 Women in Engineering

8. Coordinator 2020 年活動報告、2021 年活動計画案および予算案
 - 8-1 MD
 - 8-2 YP
 - 8-3 LMAG
 - 8-4 EA
9. 各支部 2021 年活動計画および前回理事会以降の活動報告
 - 9-1 札幌支部
 - 9-2 仙台支部
 - 9-3 信越支部
 - 9-4 東京支部
 - 9-5 名古屋支部
 - 9-6 関西支部
 - 9-7 四国支部
 - 9-8 広島支部
 - 9-9 福岡支部
10. 2021 年 Japan Council 活動計画（審議）
11. 2021 年 Japan Council 予算（審議）
12. その他
 - 12-1 IEEE R10 Special Industry Track at TENCON2020 報告
 - 12-2 MGA Awards and Recognition Committee 関連の情報
 - 12-3 Fellow/Senior/Awards 関連シニアメダル作成について
 - 12-4 広報用パンフ・ビデオについて
 - 12-5 オンラインツールの利用について
 - 12-6 次期理事会への引継事項（案）

[参考] メール審議報告

[参考] Region 10 からのメール連絡一覧

[参考] R10 Incentive Report 採択結果

議事：

0. Chair ご挨拶

Chair より開会のご挨拶が述べられた。

1. 前回理事会議事録の確認（審議）【審議→承認】

Secretary より説明があり、異議なく承認された。

2. 2021-2022年理事会・委員会メンバー（審議）【審議→保留】

Secretaryより説明があった。次期役員メンバーの方々からご挨拶が述べられた。資料に誤記や記載漏れがあったため、Secretaryより修正版をもってメール審議することが述べられた。

※ 本理事会後、メール審議により12月28日に新規理事会・委員会メンバーが承認された。

3. 2020年Japan Council活動報告

Secretaryより報告があった。コロナ禍による活動計画の変更に合わせて、MD、広報、情報システム強化などに注力した修正予算を策定し、各施策を実施したこと、新たにEA Coordinatorの活動を開始したこと、広島支部主催MAW in Hiroshimaのハイブリッド開催を支援したこと、JC WIEの支部移行を完遂したこと、などが述べられた。

4. 2020年Japan Council決算予想

Treasurerより説明があった。コロナ禍による活動計画の変更に合わせて、予算を既に修正していること、収入の部は変更がないこと、一方、対面での会議のほとんどがオンラインになり支出が予定よりも下回ったこと、予備費ではメダルやパンフレット等で支出を今後予定していること、黒字決算予想は実際には赤字決算になる見通しであること、などが述べられた。

5. 常設委員会2020年活動報告、2021年活動計画案および予算案

5-1 Chapter Operations Committee

COC Chairより説明があった。2020年Chapter支援費の執行状況について、支援費申請件数は50件であること、上限額を20万円に増額して活動活性化を促したものの低調であったこと、会計監査からの指摘に鑑みて当該年に実施したイベントは翌年の1月31日までに支援費の支払い処理を完了し、それを過ぎた申請は受け付けないこととし、2020年分は2021年1月31日までに支払いを完了すること、が述べられた。2021年の計画では、重要課題への対応として、コロナ禍の収束が見通せない状況で活動を活性化するため、2020年と同様にChapter支援費の上限額を20万円のままとすること、但し、Awardは従来通りであること、Chapter支援費とAward登録について、2021年からオンライン申請に移行すること等、の説明があった。Chapter支援費処理のSection移行について、ChapterおよびSectionへの説明会はオンライン申請手続きが軌道に乗り、その利便性を実感してもらった頃、2021年に実施すること、が述べられた。

5-2 Student Activities Committee

SAC Vice Chairより説明があった。活動報告としてIEEE Student Branch Leadership Training Workshop (SBLTW) をオンライン開催したこと、SB会員数の状況等、の説明があった。活動計画として、SBLTWの開催、SBの継続的活動の支援、SB新設の促進を計画すること等、が述べられた。SecretaryからProbationリストにあるSBについて支部と連携して対策を検討して欲しいと依頼があった。SAC Vice Chairより、活動支援費に若干余裕があるので相談し

て欲しいと発言があった。

5-3 Awards Committee

AC Chairより説明があった。活動報告として、支部委員および本部委員の更新を実施し、10月30日にJC AC全体会合をハイブリッド開催して、受賞数の推移の分析、各賞の推薦状況に関するノウハウ共有を行ったこと、Medal、Recognition、Technical Field Awards (TFA) の各受賞数の推移および受賞状況の更新を実施したこと、統計データからFellow数の減少傾向を確認したこと等、について説明があった。

活動計画として、Fellow推薦、Medal、Recognition、TFAについて支部と連携して推薦の促進を行うこと等、予算計画として、会合1回分の費用を計上すること、が述べられた。

5-4 Industry Promotion Committee

IPC Chairより説明があった。活動報告として、MAW2020広島支援、R10 Special Industry Track at TENCON2020のローカルオーガナイザーとして参加協力を行ったこと、また、企業会員にとってのIEEEの価値や企業会員増強施策議論、IEEE2020 Team Japan T-Shirtの作成等を実施し、概ね上手く進んだことが述べられた。活動計画として、MAW2021支援、企業におけるIEEEの認知度向上、IPCのミッション明確化の議論を予定すること、予算計画として、会議費、IEEE 2020プロモーションチラシ追加費用を計上すること、が述べられた。活動活性化のツールの一つとして、作成したT-Shirt活用の奨励があった。

6. Ad-Hoc委員会2020年活動報告、2021年活動計画案および予算案

6-1 Long Range Strategy Committee

佐波LRSC Chairより報告、説明があった。例年通り委員会を3回開催したこと、5つの長期課題と、それに加えて個別の短期課題を議論してきたこと、来年以降も継続して議論すること等、の説明があった。来年以降も継続して活動することが確認された。

6-2 History Committee

HC Chairより報告、説明があった。前回理事会以降、QRコードとインバータエアコンの2件のMilestone申請が承認されたこと、遺留指紋自動識別システムと商用DSP μ PD7720の開発・実用化は12月15日にNEC本社にて贈呈式を予定していること等、が述べられた。LMAG Chairより、これまでに認定の無い韓国や中国の状況について質問があり、HC Chairより、発明・発見から25年経過したものが認定対象であり、認定までに時間を要するだろう、と回答があった。Presidentより、インドでは贈呈式に首相が参加する、と発言があった。来年以降も継続して活動することが確認された。

7. Affinity Group 2020年活動報告、2021年活動計画案および予算案

7-1 Women in Engineering

WIE Chairより報告、説明があった。8月から12月にIEEE Engineer Spotlightなど6件の共催イベントを実施したこと、支部移行について四国・広島・福岡支部WIEが設立されて国内の全WIE会員の帰属が決定したこと、JC WIEを12月に解散すること、JCにWIE Coordinatorを設け、例年主催/共催していた企画の分担調整など各支部の情報共有、連携を担当すること、会計報告について解散記念Tシャツ作成に今後支出予定することをSecretaryと相談中であること等、が述べられた。2021年WIE Coordinator活動計画について、活動方針の概要や秋以降にWIE会員交流会をJapan SYWL Workshopと併催で予定していること等、の説明があった。

Secretaryより、Joint WIEの名称を定めて欲しいと依頼があり、R10 WIE Chairより、Petitionを提出していればその通りになるだろう、と回答があった。

8. Coordinator 2020活動報告、2021年活動計画案および予算案

8-1 MD

MD Coordinatorより報告、説明があった。4月と11月にそれぞれオンライン会議を催したこと、2回目の会議で「会員 生の声プロジェクト」ビデオパンフに関する活動状況を共有し、意見交換をしたこと、会計報告について、対面での会議がすべてオンラインになったため支出は無いこと等、が述べられた。活動計画について、年初にJC MD Coordinatorが中心となり各支部のMDCとの協議を通じて具体的な計画を策定し、計画に基づいて活動していくこと、予算案について、対面での会議開催に伴う移動旅費を計上していること等、の説明があった。

8-2 YP

YP Coordinatorより報告、説明があった。活動報告として、IEEE Engineer Spotlight共催、12thキャリアアップ・スキルアップに関するエッセイコンテスト開催、YPボランティア募集呼びかけ、MAW参加・SYWL開催、1st JC YP meet開催、IEEE Sendai YP kick offイベント参加、「IEEE 会員生の声」プロジェクト協力、IEEE YESIST12 2020国内選考の開催、TENCON2020協力、オンラインアイデア実装コンテスト、支部YP間情報共有プラットフォームの立ち上げ、来期YP Coordinatorの推薦等、について述べられた。活動計画は2020年と同様と説明があった。Secretaryより、エッセイコンテストで受賞したエッセイは公開されるか、と質問があり、YP Coordinatorより公開されると回答があった。

8-3 LMAG

LMAG Coordinatorより報告、説明があった。JCおよびR10のActive IEEE Life Membersの数に触れつつJCはR10の約半数を占めることや、東京LMAGのR10 Award受賞、新LMAGの設立、LMAG間の連携をはじめとする今後の期待やJCにおける次期LMAG Coordinatorの推薦について述べられた。Presidentより、Life Memberは4万人弱いるのでLMAG世界大会など人の

つながりを利用したイベントを提案できないか、まずはR10から拓げていく進め方もある、と発言があり、LMAG Coordinatorより了解と回答があった。

8-4 EA

EA Coordinatorより報告、説明があった。活動報告として、Engineer Spotlightを9回開催したこと、EA活動に関するJC臨時会議を2回、2020年度JC EA活動に関する打合せを2回それぞれ実施したこと、10月までの活動レポートをR10 EACに提出してR10 EACよりCertificate of Appreciationなどを受けたこと等、が述べられた。活動計画について、各支部によるEngineer Spotlightの開催サポート、他SACやIPC各種組織と連携したEngineer Spotlightの開催を目指すこと等、の説明があった。予算案では、Zoomアカウント契約、Engineer Spotlight講演者謝礼、TryEngineering材料費を計上すること、の説明があった。

9. 各支部2021年活動計画および前回理事会以降の活動報告

9-1 札幌支部

支部Chairより報告があった。IEEE札幌支部若手研究者年間優秀論文賞の選定やIEEE札幌支部Student Paper Contestを主催したこと、講演会を3件実施、2件実施予定であること、Presidentとの懇談会を8月に北海道大学で実施したこと、SB合同学生交流会を11月にオンライン開催したこと、その際に参加者に記念マグカップを進呈したこと、などが述べられた。会計報告について、ほとんどの行事がオンラインになりこのための支出が予定を下回ったこと、その他は計画通りであることが報告された。活動計画について、SB活動支援、札幌開催予定のMAW2021、LMAG設立などに注力すること、予算計画について、LMAG設立等のためのSection支援費を支部として初めて計上していることが、述べられた。SecretaryよりMAW2021のタイミングに合わせてLMAG設立の記念式典を検討しているのかと質問があり、支部Chairよりその通りと回答があった。

9-2 仙台支部

支部Chairより報告があった。コロナ禍の影響等で主催講演会を2件中止した一方、Sendai WIE設立3周年記念イベントを含めてWIE関連のイベントを2件、LMAG関連のオンライン講演会を2回、Sendai YP設立キックオフイベントをオンライン開催したこと、MDCによるNominationおよびReference支援を実施したこと、支部傘下Chapterの運営支援を実施していること等、が報告された。また、活動計画は2020年と同様であることに加えて、ホームページのリニューアルを行う予定であることが述べられた。

9-3 信越支部

支部Chairより報告があった。電子情報通信学会・信越支部大会でのIEEE Sessionで学生2名を表彰したこと、同大会にてSection SBポスターセッション開催し表彰したこと、電気学会東

京支部新潟支所大会を共催したこと、会計報告について、行事がオンライン開催になり支出が予定を下回り繰越が多くなっていること等、が報告された。活動計画は2020年と同様であること、予算計画も例年通りであること、が述べられた。

9-4 東京支部

支部Vice Chairより報告があった。会員増加と維持の取組を実施したこと、Fellow・Senior会員増強の取組に注力したこと、各組織内で機動的に奨励活動を促進するキーパーソンを選定し、Fellow推薦、Senior申請を増やす取組みを始めたこと、12月15日に2件、2021年3月に1件のMilestone贈呈式を予定していること、YPおよびLMAGが活発に活動したこと、等が述べられた。会計報告について、計画通りに進んでいること、活動計画については特に会員増加と維持の取組を継続すること、予算計画については2020年並みであること、等が述べられた。

HC Chairより、2021年3月のMilestone贈呈式は2021年3月5日で確定か、と質問があり、Secretaryより、東京支部理事会で3月5日と確認しているが再確認すると回答があった。

※ その後、3月5日の実施が確定していることが確認された。

9-5 名古屋支部

支部Secretaryより報告があった。主催・共催・協賛行事を3件、協賛行事を17件実施したこと、2019年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会にて優秀発表者6名にIEEE名古屋支部学生奨励賞を授与したこと、国際会議研究発表賞の公募を行い、13件を表彰したこと、29名の学生に名古屋支部優秀学生賞を授与したこと、QRコードとインバータエアコンのMilestone申請が承認され、インバータエアコンについてはPresidentにご参列頂き、3月16日に贈呈式を開催することが決定したこと、支部推薦の4名を含め12名がSeniorメンバーに昇格したこと、等が報告された。活動計画について、QRコードとインバータエアコンのMilestone贈呈式を開催すること、Webによる広報、支部推薦制度を活用し、Senior昇格記念メダルの授与を通してFellowとSeniorメンバー昇格の積極的な勧誘を行うこと、新たに設置したEACを中心にEAの活動を推進することが述べられた。予算計画ではMilestone贈呈式やSenior昇格記念メダル調達のための費用を計上していること、等の説明があった。

9-6 関西支部

支部Chairより報告があった。第111回技術講演会「5Gとその応用への取組みについて」を主催したこと、第112回技術講演会「不確実性を増すこれからの時代のR&Dとイノベーション(予定)」の主催を予定すること、IEEE Kansai WIEシンポジウム2020をオンライン開催したこと、博士課程のキャリアについて語る会をオンライン開催したこと、Seniorメンバー昇格のための勉強会・講演会を対面実施したこと、等が述べられた。2021年は2020年に引き続き活発に活動すること、会計報告について収入は例年通りであること、支出はコロナ禍で予定を下回っていること、等の説明があった。

9-7 四国支部

支部Chairより報告があった。サイバーセキュリティシンポジウム道後2020を9月にオンライン開催したこと、令和2年度電気・電子・情報関係学会四国支部連合大会は中止となったこと、IEEE国際会議TALE2020をオンライン開催したこと、講演会をすべてオンライン開催したこと、英語ブラッシュアップセミナーを3回開催したこと、WIEの設立経緯、準備状況、11月21日に設立イベントを実施したことが述べられた。会計報告についてコロナ禍で支出が減っていること、会計計画について例年並みで2020年にできなかった企画の開催を試みることを、等の説明があった。

9-8 広島支部

支部Chairより報告があった。Metro Area Workshop 2020 in Hiroshima(MAW2020)を10月16日にハイブリッドで開催したこと、現地参加56名、オンライン参加118名であったこと、WIE四国・広島・福岡設立記念イベントを11月21日に開催したこと、IEEE広島支部学生シンポジウム(HISS)をオンライン開催したこと等、が述べられた。会計報告についてMAW2020開催で例年より規模が大きくなっていること、予算計画はWIEとの連携で規模が大きくなっていること、等の説明があった。LMAG Chairより、困難な状況でのハイブリッド開催に評価する、と発言があった。Presidentより、広島で開催された国際会議 The 2020 IEEE International Symposium on Radio-Frequency Integration Technology (RFIT2020) について質問があり、大久保支部Chairより、ハイブリッドで開催し、会場参加人数は100名程度と回答があった。

9-9 福岡支部

支部Vice Chairより報告があった。例年通りに学生研究奨励賞を授与予定であること、2020年11月時点で実施予定を含め15件(支部理事会2回、協賛講演13件)の講演会、研究会、国際会議等を開催し、1件を中止したこと等、が述べられた。会計報告ではオンラインでのイベント開催が増えて予定よりも支出が下回ったこと、予算計画は2020年の実績を基に立案していること等、の説明があった。Presidentから、1月17日と18日に福岡で開催したIEEE Board of Directors Strategic Retreatの際には36名の理事が集まり、支援を頂いた福岡支部に感謝していると、と御礼の言葉があった。

10. 2021年 Japan Council 活動計画（審議）【審議→承認】

Secretaryより説明があり、異議なく承認された。各支部の活動強化への協力、各支部の会員Renewalの未更新低減への支援、EAやWIEの活動支援、Fellow昇格者数の増加を目指した会員増強への施策検討、MAW2021への支援、財務管理の強化に基づく予算の一層の有効活用、運営フローの改善や活動関係組織や事務局の業務効率化、本部やR10との連携強化等に取り組むこと等、が述べられた。

MGAARC Past Chairより、Fellow/Senior/Awards強化検討チームを設定したが来年も継続

するか、と質問があり、Secretaryより、2020年に2回開催し、2回目に2021年も新体制の下で継続する、と回答があった。

11. 2021 年 Japan Council 予算（審議）【審議→保留】

Treasurer より説明があった。現状を踏まえ 100 円/ドルで立案していること、各委員会や各 Group からの申請を組み込むほか、基本方針として、これまでの実績を基にした予算案から初めていくこと、このため会議費等は 2019 年の決算を基にして立案していること、当初 2021 年予算で計上していたメダル作成費用 200 万円は 2020 年の予算に組み込むこと等、が述べられた。

COC Chair より、ツール改修費は別途計上か、と質問があり、Treasurer より、その通りでコロナ禍が改善する場合は修正予算を考えているのでその時点で盛り込んで欲しい、と回答があった。IPC Chair より、リモート会議の品質向上のためのマイクやスピーカなどの購入は必要ないか、と質問があり、Treasurer より、増強を進めている、事務局費に含まれているので検討したい、と回答があった。

※ 本理事会後、メール審議により12月28日に修正された予算案が承認された。

12. その他

12-1 TENCON2020、および IEEE R10 Special Industry Track at TENCON2020 報告

Chair から TENCON2020 の開催概要報告があった。11 月 16 日から 4 日間にわたりオンラインで開催されたこと、ユニーク接続数が 534 あったこと、426 件の投稿論文があり、289 件採録されたこと等、の説明があった。

また、Past Secretary より IEEE R10 Special Industry Track (SIT) について報告があった。11 月 18 日日本時間 3:00pm-7:00pm、TENCON 2020 の中で TENCON プラットフォーム (ZOOM Webinar) により開催したこと、テーマは「SDGs に向けた新しいビジネスとビジョンの創出」であり、83 名の参加者があったこと、出席者の属性分析やアンケート結果が示され、概ね好評であったこと等、の説明があった。

R10 Secretary より、講演者が素晴らしかった、講演が勉強になった、海外のスタートアップによる講演は良い交流の場であった、若い人たちにとっても刺激的なセッションだった、と発言があった。河東オブザーバより、非常に素晴らしいセッションであった、もう少し講演時間が多ければ（時間が短かった）と感じた、と発言があった。

12-2 MGA Awards and Recognition Committee 関連の情報

MGA ARC Past Chair より、秋に発表のあった 2020 MGA Individual Award 受賞者について報告があった。今回、日本からのノミネーションは無かったこと、NTT 東日本が Supporting Friend of IEEE MGA Award を受賞したこと等、の説明があった。日本からノミネーションが無かったことについて課題提起があった。

12-3 Fellow/Senior/Awards 関連シニアメダル作成について

Secretary より説明があった。現在、作成に移行し来年 3 月に完成を予定していること、審議を通じ、「しかるべき公の場で授与した方がよい」、「デザインの由来を説明した方がよい」等の意見があったため、これを反映して運営できるように次期体制に引き継ぐこと等、の説明があった。

12-4 広報用パンフ・ビデオについて

Secretary より説明があった。会員獲得・維持強化を目的とした広報コンテンツの制作を進めていること、これまでに制作したパンフやビデオの概要等、の説明があった。またパンフ・ビデオの英語化作業の提案があり、2020 年予算で実施すること、2021 年 1 月に完成を予定すること、が述べられた。President より、会員数の推移について、また、パンフ・ビデオ制作で Japan Office と連携して進めているか、と質問があり、Secretary より、会員数は前年度月比で減少傾向である、また制作は Japan Office と連携して進めている、と回答があった。President より、学生とそれ以外の会員数の状況について質問があり、MD Chair より、Undergraduate Student の減少が大きい、と回答があった。

12-5 オンラインツールの利用について

Secretary より説明があった。Zoom や Webex など、2021 年のオンラインコミュニケーションツールの利用についての運用方針が示された。特に Webinar 形式のイベント実施などに関しては、今後は各支部、委員会等でツールを用意し、運用して欲しいとの協力依頼と、合わせてそのために必要な費用については、Section 支援費の適用が可能であることなどの説明があった。

12-6 次期理事会への引継事項（案）

Secretary より説明があった。定例業務、会計報告、IEEE Japan Council 事務局の管理、IEEE 本部・Region10 との連携・交流、次期執行部のアクションアイテム等について説明があった。特に、会計報告ではコロナ禍の状況に応じた予実管理の重要性が強調された。また、最近の動向を踏まえた JC 各委員・AG・Coordinator 等の役割の更新が示された。

[参考] メール審議報告

[参考] Region 10 からのメール連絡一覧

[参考] R10 Incentive Report 採択結果

[その他]

- ・ Treasurer より、Section 支援費申請の追加等があれば Mail 等での申請の依頼があった。

Vice Chair より閉会のご挨拶が述べられた。IEEE の活動はフットワークを軽くして様々なことを即座にできることを強みと感じていること、来年以降に向け、フットワークの軽さを最

大限に活かして迅速に取り組んでいけば、さらに大きく発展するので期待していること、が述べられた。

以上